

研究結果報告書

異文化伝達の観点からみた日タイ翻訳

所属：タマサート大学 教養学部 日本語学科

役職：准教授

氏名：ソムキアット・チャウエンギジワニット

本研究では、既に翻訳が公開されている一般文章（記事、感想文、ニュース等）及びビジネス文書（ビジネス場面で使用される手紙・Eメール、スピーチ原稿等）の翻訳文をデータとして収集し、原文と比較しながら、異文化伝達という観点で分析をした。

まず、異文化要素の処理に当たって用いられる翻訳ストラテジーを「直接訳」（起点言語をそのまま用いた訳出法）、「一般化」（上位語を用いた訳出）や「文化的置換」（異文化の要素と何らかの共通点をもつ読者側の文化の要素に置き換えた訳出）等、9つのストラテジーに分類し、各ストラテジーの適用状況を個別に観察することで、タイ人訳者の翻訳上の問題点を明らかにした。以下に問題点の具体例を示す。

①人名や地名、料理名等の場合は「直接訳」がよく用いられるが、「ズッキーニ」「きび団子」のようなタイ人読者がよく知らない食材名・料理名の場合は不適切である。また、「夏川さんのところはご主人東大出のエリートなんでしょう。ゆたかくん（＝息子）も賢いものねー。」という発話においては「東大」という大学名よりも「競争率が高い大学で、この大学を卒業した人は優秀である」という含意のほうが重要なので、直接訳法では作者が伝えようとする意味が読み手に伝わらない。

②「スーパー」等の外来語は、タイ語でも同様の外来語が使用されている場合、その外来語に訳す傾向があるが、「コンドミニウム」「マンション」のように日本語とタイ語では意味が若干異なる場合、不適切である。また「NG」のような和製英語は、そのまま訳してもタイ人にはわからないため、不適切である。

③「下着はベランダに干すべきではない」と伝えるための発話である「隠さなくていいの？」のような婉曲表現を、文字通りに原文に忠実に訳そうとする傾向があるが、それではタイ人読者は単なる疑問文だと誤解をしてしまう。

このように、翻訳の実際の現場で「日タイ翻訳」がどのように行われているかを分析し、体系的に整理・分類することにより、翻訳とはどうあるべきかを見つけ出すことができたと考える。より望ましい翻訳のために必要なことは以下のようにまとめられる。①原文の味わいや微妙なニュアンスも含め、原文の作者が伝えようとする「本質的な意味」を正確に訳すこと。②読み手に正しく受容されるか否かを考慮すること。つまり、訳そうとする表現について読み手が知っているか、どの程度知っており、どの程度の情報を求めているか等、読み手の背景知識を考慮し、誤解を与えないよう訳すこと。その際、詳しくればいいというわけではなく、詳しくすぎる説明は逆に読み手を混乱させる恐れがある。③自然でわかりやすい表現で訳すこと。

しかしその一方で、分析の対象にした資料の中には、プロの翻訳家によって訳出されているにも関わらず、読者に誤解を招いてしまう可能性のある訳文や、不自然な訳文も散見された。そういった表現のより適切な翻訳は何かを探るために、当該の表現を含む日本語の文章を多数のタイ人大学生（ある程度の翻訳経験を持ち、半年後に大学を卒業し翻訳の仕事に携わる予定である者）に翻訳させる実験も行った。その結果を基に、状況や背景となる文化等を踏まえた、より適切な訳し方を提案し、「翻訳の多様性」を示した。以下に、その具体例を示す。①原文の品詞（名詞は名詞に訳し、形容詞は形容詞に訳す）や文構造を維持する必要はなく、意味を伝える工夫をすること。②読み手の言語文化を考慮し、情報提示の順序を変えることも効果的である。例えば日本語のビジネス文章では「いつもお世話になっております」は文頭で用いられることが多いが、タイ語ではこのような表現は末文として用いられるのが一般的であるため、順序を変えるほうが自然であろう。③「いつもお世話になっております」のような定型表現はタイ語にはない。したがって、直訳すると違和感を感じるタイ人が多く、取り立てて相手の世話をしていない場合、ゴマを播られているような印象を受けてしまう。そのため、この表現の「人間関係を円滑に保つ定型表現」という「機能」に注目し、タイ人が用いる定型表現に訳すことが効果的である。④会社の納品遅延に対するお詫びの手紙等の冒頭に書かれた「貴社益々ご清祥のこととお喜び申し上げます」のような表現も

日本人にとっては型通りの挨拶文にすぎないが、タイ人は好まないため、省略する（訳出しない）ことも一つの方法であろう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

「日・タイ翻訳のストラテジー」（投稿中）

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）